

メキシコ地震災害に対する国際消防救助隊の活動概要

参事官付

1 地震発生・初動対応

平成29年9月20日（水）3時14分頃（現地時間9月19日13時14分頃）、メキシコ合衆国モレロス州アソチアパン市から南東約12kmを震源地とするマグニチュード7.1の大規模な地震が発生しました。この地震により首都メキシコシティを中心に死者300名、負傷者1,200名を超える甚大な被害が発生しました。

消防庁では、地震発生後から、外務省及び独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という。）と緊密な連絡調整を行っていました。そして、地震発生当日、メキシコ政府が我が国政府に対して捜索救助チームの派遣を要請したことを受けて、外務大臣から消防庁長官へ派遣協議がありました。消防庁長官は、直ちに、事前に定めた出動計画、当日の第一派遣順位であった7消防本部の市町村長に派遣要請し、要請に応じる旨の回答を得た後、国際消防救助隊の派遣を決定しました。そして、消防庁1名と7消防本部16名で構成される国際消防救助隊は、9月21日（木）9時45分に成田国際空港に集結することになりました。

2 空港集結・発隊・出発

指定時刻までに成田国際空港に集結した国際消防救助隊17名は、国際緊急援助隊・救助チームの一員として他のメンバー（外務省、警察、海上保安庁、JICA等）と合流し国際緊急援助隊・救助チーム結団式に出席した後、国際消防救助隊発隊式を行いました。発隊式では、引き締まった雰囲気の中、野田総務大臣からのメッセージを消防庁上村参事官が代読し、派遣される隊員に伝えられました。その後、出国審査等の手続きを経て、14時25分発及び17時05分発の2便に分乗し、成田国際空港を出発しました。



国際消防救助隊発隊式

○国際消防救助隊派遣メンバー（17名）

・消防庁	1名
・東京消防庁	6名
・仙台市消防局	3名
・京都市消防局	3名
・朝霞地区一部事務組合	
埼玉県南西部消防本部	1名
・豊中市消防局	1名
・和歌山市消防局	1名
・高知市消防局	1名

国際消防救助隊発隊式での野田総務大臣メッセージ

- 昨日、午前3時14分頃（現地時間一昨日13時14分頃）、メキシコ合衆国でマグニチュード7.1の強い地震が発生し、一部報道によるとこれまでに、200人を超える方々がお亡くなりになるなど、甚大な被害を受けたと伺っております。
- 国際消防救助隊の皆様には、この甚大な被害を受けたメキシコ合衆国政府からの要請を受け、本日ここに集結して頂き、救助活動に当たって頂くことになりました。
- 消防に国境はありません。被災地は非常に厳しい環境であろうかと思いますが、被災地の方々のために我が国の高い救助技術を十分に発揮して、皆様の『愛ある手』で、一人でも多くの方を救出していただくよう、よろしくお願いします。
- 結びに、皆様が任務を立派に果たされ、無事、日本に帰国されることを御祈念申し上げます。よろしくお願いいたします。

3 到着・現地での活動

2便に分乗した隊員は、メキシコシティ国際空港に9月21日（木）の12時30分及び15時25分に到着しました。（以下、現地時間）

メキシコシティに到着した国際緊急援助隊・救助チームは、直ちにメキシコ政府との現地調整会議に出席し、その場でメキシコシティ市内ブレターニャのマンション崩壊現場における捜索救助要請を受けました。救助犬を含む先遣隊を現場に派遣し調査した上で、2個中隊のうちの第一中隊で捜索救助活動を実施しました。その後、22日（金）深夜に要救助者を救出しましたが、国際緊急援助隊・救助チームの医師により死亡が確認され、御遺体に黙とうを捧げた後、メキシコ軍に引き渡し、同現

場での捜索救助活動を終了しました。

21日（木）20時過ぎには、2つ目の現場としてメキシコ政府よりメキシコシティ市内オブレゴンのオフィスビル崩壊現場での捜索救助要請があったため、第二中隊が、米国、イスラエル、メキシコの救助隊とともに、捜索救助活動を実施しました。この現場では、豪雨により22日（金）深夜から活動を中断し、朝から活動を再開しましたが、午後に入り重機での作業に移行したため、重機を保有しない国際緊急援助隊・救助チームは後述するトラルパンの現場に転進することとなりました。

22日（金）午前には、3つ目の現場としてメキシコ政府より捜索救助要請のあったトラルパンのマンション崩壊現場に入り、2個中隊により捜索救助活動を実施しました。途中、余震により活動を停止せざるを得ない状況の中、活動は24日（日）までイスラエルやメキシコの救助隊とともに継続されましたが、ドッグサーチ等による生体反応も見られなくなったため、同現場での捜索救助活動を終了しました。

その後、メキシコ政府から、生存者捜索の可能性のある現場はこれ以上ないとの見解が示されたため、本派遣における捜索救助活動は、事実上終了しました。



プレターニャでの救出活動（JICA提供）



現場での黙とう（JICA提供）



活動現場入りする隊員（JICA提供）



ファイバースコープを用いた捜索（JICA提供）

本震災を受けて、メキシコ政府は国際社会に対し、国際緊急援助は原則不要とのメッセージを発信しつつも、日本に対しては二国間の関係で捜索救助チームの派遣を要請しました。アジア圏でメキシコ政府より要請を受けて捜索救助チームを派遣したのは、日本のみであり、国際消防救助隊は、このような大きな期待を受けながら、国際緊急援助隊・救助チームの主力として、豪雨や余震といった厳しい環境の中で献身的活動を行い、メキシコ政府及び国民より最大限の感謝の意を受けました。

消防庁では、国際消防救助隊の派遣活動がより高いレベルで遂行できるように、今回得られた貴重な教訓を活かしてまいります。

現地では、復興に向けた動きも始まっています。犠牲になられた方々の御冥福と被災地の早期復旧・復興を心からお祈りするとともに、今回の国際消防救助隊の活動が被災者の復興に向けた励みに少しでもなることを願っています。

国際消防救助隊解隊式での野田総務大臣メッセージ

- 国際消防救助隊としてメキシコにおける地震災害に派遣された、鈴木総括官、木下隊長以下17名の隊員の皆様、本当にお疲れ様でした。
- 今回の派遣では、余震や豪雨といった大変厳しい環境の中での捜索・救助活動となりましたが、皆様の献身的な活動については、メキシコ側から高い評価と謝意が表明されております。日本においても連日大きく報道され、その活動ぶりを見るにつけ、私自身もたいへん心強く感じました。そして、国際消防救助隊が国際緊急援助隊の中核となって活動されたことを総務大臣として誇りに思います。
- ご家族の方や派遣元の消防本部におかれても、皆様の連日のご活動を誇りに思いながらも、さぞかし心配されたことと思います。私も、皆様が全員ご無事で帰国されたことに安堵しております。
- 皆様におかれましては、今回の経験をそれぞれの職場での活動に活かし、今後も人命救助という困難かつ崇高な任務を全うしていただきたいと思います。
- 隊員の皆様、本当にありがとうございました。

4 帰国

メキシコでの任務を終えた国際緊急援助隊・救助チームは、9月26日（火）1時50分発、27日（水）1時50分発及び2時20分発の3便に分かれて、メキシコシティ国際空港を出発し、それぞれ9月27日（水）、28日（木）早朝に成田国際空港に到着しました。

帰国後は国際緊急援助隊・救助チーム解団式の後、国際消防救助隊解隊式が実施されました。解隊式では、鈴木国際消防救助隊総括官（消防庁）からの活動報告、木下国際消防救助隊隊長（東京消防庁）による国際消防救助隊連隊旗返還、上村参事官による野田総務大臣メッセージ代読、坂野全国消防長会事務総長挨拶が行われました。



国際消防救助隊解隊式

問い合わせ先

消防庁参事官付 柿本、長戸
TEL: 03-5253-7507